



はな や みつ よし 花谷充愉議員が 府議会で代表質問

花谷充愉議員（都島区選出）は、2月27日に開かれた2月定例府議会で代表質問に立ち、私学助成の問題点とモトクロス大会の経済効果が数百億円との過大評価をした知事発言を追求した。

〈花谷 充愉〉
はなや みつよし

昭和38年3月9日生まれ。同志社大文学部卒。衆議院議員秘書、中小企業診断士、大阪府議会議員4期、自民党府議団政調会長。現在、自民党府議団幹事長、総務常任委員、議員定数特別委員会（略称）委員。
<http://www.hanaya-mitsuyoshi.jp/>



私学助成・ 授業料支援補助金

28年度以降に変更する 私学助成の長期展望の欠如を問う

Q. 花谷議員

授業料支援補助金は、平成27年度の入学生迄は支給するが28年度以降は検討するという事で保護者の間でも不安

の声が上がっている。

我が会派は、厳しい財政状況の中で約230億円という多額の税金を使って無償化を行うからには、効果検証をきちんと行うべきと主張してきた。58万円^(※)を超える部分の授業料を学校が徴収出来ない為に、耐震化の遅れや特色ある教育の展開が困難になるのではないかと危惧も抱いている。

また、経済的理由によらず、公立、私立が競って教育力の向上を図るという観点からも、26年度の私学の専願率は25%を下回っており、制度の効果は上がっていない。

5年間の短期間の実施では保護者の不安をおおるだけであり、財政的な裏付をとまなう持続可能な制度を策定すべき。

28年度以降に制度変更するなら、早い時期での制度周知が必要だ。26年9月議会で議論されるべきと考えるが、そのスケジュールはいかがか。

(※年間授業料が58万円を超える学校は、超過分を学校側が負担。)

A. 府民文化 部長

平成28年度以降の入学生の授業料支援については、現行の無償化制度の効果検証を行いながら引き続き自由な学校選択が可能となるよう、制度を検討していく。経常費助成も含め、私学助成トータルについて検討を行い、今年の夏ごろには考え方を示したい

花谷議員
指摘

1年違うだけで不公平や 悪影響が出ないようにすべき

5年間だけの取り組みでは、単なる集票のためのバラマキだったのではないかと、という思いさえしてくる。無償化が持続出来ない場合は、27年度入試の子供は無償で、28年度入試の子供は多額の費用がかかることになる。同じ学校で生徒や保護者が1年違うだけで、大きな不公平が生じないように、また、学校選択に悪影響が出ないようにすべきと考える。

経済 効果額

数十億、数百億の経済効果額に根拠なし！ 知事の思いつき発言

Q. 花谷議員

知事は法定協議会（1月17日）で、為し得た成果の例に大阪城を利用したモトクロス大会を挙げ「来客者数2万人、数十億、数百億規模の経済効果が出ている」と自信満々に話されたが、その根拠はなにか。

A. 知事

大阪が大きくPRできた。数十億、数百億は僕の長年のビジネスマンとしての感覚だ。

Q. 花谷議員

いちビジネスマンの発言と880万人府民の代表の知事が発言するのは全く違う。何の根拠も無く、思いつきで発言されたのか。根拠がなければ撤回して頂きたい。

A. 知事

撤回するつもりは全くない。部局の方から経済効果の数字について示す。